

4 段階評価

4 期待以上

3 ほぼ期待どおり

2 やや期待を下回る

1 改善を要する

学校経営ビジョン

夢や目標をもち、主体的に学ぶ、粘り強い生徒の育成。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
知 育	重点目標： 主体的な学びによる 学力の向上 手段： 1 キャリア教育の視 点を意識した教育活 動を行い、夢や目標 をもたせる。 2 小中一貫性のある 学習指導、ICTの 活用、ひなたの学び をすすめる、授業改善 を推進する。 3 「個に応じた指導」 を充実させることで、 「できる・分かる」 実感をもたせる。 4 英検の適切な級へ の受検を推進し、3 級合格3名以上を目 指す。 また、漢検におい ては、3級合格8名 以上を目指す。	1について ・外部人材活 用35回以上	1について (1)1年生は、こすもす科での農家体験の体験を通し、 さまざまな問題への意識高揚に繋げる。 (2)2年生は、職場体験学習を通して、正しい勤労観 や職業観を身に付けさせ、将来の生き方について考え させ、自己実現を図る取組を行う。 (3)3年生は、高校説明会を実施し、適切な進路選択 や進路実現に向けて、キャリア教育の充実に努める。	2.8	3	○1年生の農家体験、2年生の職場体験、 3年生の高校説明会・福祉体験をはじめ、 全校でも、地域の協力のもと多くの農業体 験等を実施した。体験を通して、地域の良 さや働く意義等についても理解を深めるこ とができた。外部人材を活用した取組は、 延べ40回以上実施できた。 農業関連の体験は充実しているが、様々 な職種や多様な進路選択を考えられること ができる取組も必要である。
		2について ・全員1回の 研究授業実施 (タブレット を活用) ・小中合同の 授業研究会の 実施	2について (1)目的を意識しながら場面に応じてICTを活用し、 「協働的な学び」や「生徒の表現活動」につなげるこ とを通して、授業力の向上(タブレットの活用や話し 合い活動の推進)に努める。 (2)小中合同による授業研究会を通して、小中一貫性 のある学習指導に努める。	3.4		○校内では、一人1回の研究授業を実施し、 相互参観を行うことができた。 また、小学校と合同研究推進委員会と授 業研究会を行った。今後、小中一貫した研 究をさらに推進し、令和7年度の市の研究 発表につなげていきたい。
		3について ・対外テスト において各教 科地区平均よ り+5点以上	3について (1)生徒の理解度や「つまづき」の把握に努め、職員 間で情報を共有し、実態に応じた課題設定と授業を行 うとともに、「個に応じた指導」を充実させる。	3.3		○校内でのテスト、対外テストの結果を分 析し、補足的な指導や個別指導を行った。 対外テストの結果も地区平均を大きく上回 っており良好であった。 授業内容の理解度に生徒と保護者間で、評 価の差がみられることから、家庭学習のあ り方について保護者と連携を図る必要性が ある。
		4について ・3級以上合 格英検3名以 上、漢検8名 以上	4について (1)英語科担当を中心に英検受験を推進する。 (2)国語科担当を中心に漢検受験を推進する。	3.0		○本年度の英語検定受検者数は、19名(延 べ人数)で、3級以上取得者は2名であった。 漢字検定受検者は、32名(延べ人数)で、 3級以上の取得者は7名であった。今後も 検定受験を推進していく。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
徳 育	重点目標： 豊かな人間性・主体的に 生きる力の育成 手段： 1 校内、校外を問わず、自発 的で元気なあいさつを目指 す。 2 道徳教育や人権教育の充実 に努め、豊かな人間性を育む ことで、「いじめゼロ」「不登 校ゼロ」を目指す。 3 一人一人に寄り添う支援や 教育相談の充実に努め、自己 決定させる場面を意図的に設 けることで自尊感情を高め る。 4 生徒の長所を伸ばす支援を 行うことで、困難に前向きに 取り組み、乗り越えようとし る態度と自信を育てる。 5 スクールワイドPBS、発 達支持的生徒指導を推進し、 生徒一人一人に自己指導能力 を身に付けさせる。	1について ・自発的あい さつ100%	1について (1)あいさつや返事等の自主的・自治的な活動を徹底 する。 (2)その場での常時指導に努める。	3.1	3	○生徒の評価は高い(3.5)が、全体的に声が小さ いと感じる。また、保護者アンケートでは、昨年 度と比較すると+0.5となっており、あいさつを 含めた基本的生活習慣について、良い方向に改善 されていると思われる。
		2について ・いじめの解消 100% ・新たな不登校 生徒0 ・道徳科の時間 実施率100%	2について (1)生徒指導主事を中心に保護者や関係機関とも連携 し、不登校の解消に努める。 (2)道徳の時間の100%実施に努める。	3.3		○毎月実施している「いじめに関するアンケート」 では、いじめ等のトラブルは確認できなかった。 ○不登校については、定期的な訪問を行った。 ○全職員で道徳科の授業に取り組んだ。 ○保護者アンケートでは、昨年度と比較すると+0. 5となっており、人権意識の高まりが感じられる。
		3、4、5につ いて ・常時相談と 教育相談期間 の設定 ・生徒会活動 や学校行事の 生徒主体の活 動 ・ボランティ ア活動の充実	3、4、5について (1)一人一人が大切にされる学校づくりを目指し、職 員と生徒の人間関係醸成を図りながら、信頼づくりに 努める。 (2)実行委員会等の指導・支援を通して、生徒一人一 人が学校行事やボランティア活動への自発的・主体的 行動を促す。 (3)生徒一人一人にあせらずじっくり対応し、自己決 定させる場面を多く設定し、発達支持的生徒指導を意 識しながら指導を行うように努める。	3.1		○生徒一人一人に、常時声かけを行うとともに、 学期に1回全員を対象に教育相談を行っている。 今後も信頼づくりに努める。 ○気になる生徒については、養護教諭との相談を 通しての支援も行っている。 ○悩みを抱えている生徒には、自己決定の場面を 設定し、じっくり時間かけて取り組んでいる。 ○学校行事やボランティア活動へ自発的・主体的 に取り組んでいる。本年度は、「届けよう、服の カプロジェクト」、地域行事への企画からの参加 など積極的な取組がみられた。
体 育	重点目標： 健康・安全教育、体力・ 競技力の向上 手段： 1 ネット、ゲーム、スマホ等 の使用について生徒への指導 と保護者への啓発を行うこと で、7時間以上の睡眠時間の 確保を図る。 2 目の健康について、視力検 査と目の運動についての指導 を行う。 3 体力向上プランを基に体 育の行事や部活動の指導の充 実を図り、体力向上、競技力 の向上を目指す。 4 授業開始・終了時の立腰指 導を含め、日常生活の正しい 姿勢づくりを図る。	1について ・ネット上の トラブル0 ・平日、7時 間以上の睡眠 80%	1について (1)アンケートの実施を通して、実態把握に努める。 (2)情報モラル教室を年2回実施し、ネット上の危険 性についての理解を促す。 (3)リーフレット等の配付を通して、家庭でのルール 作り、睡眠時間7時間以上確保等の協力を求める。	2.9	2	○毎月実施している「いじめに関するアンケート」 では、ネット上のトラブルは確認できなかった。 校内では、年2回生徒を対象としたネット上の危 険性についての学習を実施するとともに、毎月の 啓発活動（リーフレット配付）に取り組んだ。 保護者アンケートでは、平均2.4となっており、 スマホ等の取扱いに苦慮されていると思われる。
		2について ・目の健康に ついての指導	2について (1)講話や視力検査を通して、目の健康の大切につ いての指導を行う。	2.5		○目の健康の重要性について、講話や視力検査を 通して、意識付けを行っているが、更なる啓発・ 指導が必要である。
		3について ・Tスコア48 項目中35項目 で県平均以上 ・部活動県大 会出場	3について (1)体育の授業で体力向上を考えて取り組ませる。 (2)部活動においても、それぞれの運動の特性に応じ たトレーニングメニューに取り組み、体力の向上及び 競技力の向上を図る。	2.9		○Tスコア48項目中29項目で平均を上回った。 目標を達成することはできなかったが、体育の授 業の最初に体力の要素を高めるためのトレーニ ングを実施することで、体力作りに努めている。部 活動でも体力や技能の向上を考えて活動できた。 男子バレーは、県大会出場を果たした。
		4について ・立腰定着 100%	4について (1)立腰指導については、各授業の始めと終わり、集 会等を通して、常時指導を行う。	2.6		○立腰については、各授業の始めと終わり、集会 等で行っているが、職員・保護者ともに評価が低 い。スマホ等の使用による影響もあると思われる。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数 値目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
食 育	重点目標： 健康な身体づくりのための「食」に対する意識高揚と実践力の向上。 手段： 1 残食0を基本とした給食指導の充実及び朝食の重要性を啓発することで朝食抜き0を目指す。 2 「弁当の日」の発達段階に応じた具体的な到達目標の設定と家庭への啓発により確実な実践（年5回）を目指す。	1について ・給食残菜0 ・朝食をとる生徒100%	1について (1)給食の残菜ゼロをめざす。 (2)朝食に関するアンケートの実施と考察を行い、実態を把握する。 (3)保健だより等を通して、食に関する情報の提供を行う。	3.0	3	○定期的に食育だより（通信）を発行し、食に関して啓発できた。さらに、栄養教諭と連携して、食に関する学習を実施することができた。 ○朝食に関しては、ほぼ毎日食べないと回答する生徒が1名いる。朝食の重要性について、栄養教諭の講話を元に、本人・保護者に継続して支援していく。
		2について ・弁当の日確実な実践5回実施	2について (1)「弁当の日」実施について、家庭への協力を求めるとともに、事前の目標設定や計画を行い、確実に実施する。	2.8		○年間5回設定したが、その内4回を主体的、計画的に指導、実施できた。しかし、取組に関しては、昨年度と比較して生徒アンケートで-0.5で平均3.3。保護者アンケート平均2.9となっており、取組への負担感があるのではないかと考えられる。次年度は、年3回の実施とし、生徒・保護者に「弁当の日」の発達段階に応じた具体的な到達目標の設定と家庭への啓発を行う。
そ の 他	重点目標： 保護者や永久津小学校、地域との連携の推進 手段： 1 管理職や主任の打合せを密に行い、合同職員会議の充実及び保護者や地域との連携強化を推進する。また、生徒の主体性や郷土愛を育むため地域の行事（永久津ドンと祭り）に企画段階から関わらせる。 2 学校だよりや学級通信の定期的な発行とホームページの積極的な更新を行う。 3 効率的な業務の推進を図る。	1について 小学校及び関係機関との連携	1について (1)円滑に合同行事を実施するため、小中合同の職員会の充実を図る。 (2)永久津いきいき協議会、永久津校区教育振興会等との連携を通して、生徒の地域行事への積極的参加を促す。	3.0	3	○小中合同の職員会や研修を実施したことで、円滑に合同行事計画の全実施ができた。生徒アンケートによる評価(3.5)、保護者アンケート評価(3.7)で高い評価である。 ○健幸こばやし大運動会、永久津ドンと祭りなどに地域の一員として、多くの生徒・保護者が関わることができた。特に、永久津ドンと祭りでは、3年生が企画の段階から参加することで、地域の中で果たす役割についての意識が高まった。
		2について ・学校だより毎月発行 ・学級通信の定期発行 ・ホームページ更新70回	2について (1)学校だよりや各担任からの学級通信を定期的に発行させ、積極的に外部への情報発信を行う。 (2)ホームページの更新を行う。	3.4		○学校だよりや学級通信等の定期的な発行、ホームページの更新を通して、積極的に外部への情報発信ができた。今後も積極的に学校情報公開を進めていく。生徒アンケート平均3.4。保護者アンケート平均3.7となっており、昨年度より評価が上がっている。 次年度も、定期的な情報発信を継続していく。
		3について ・効率的な業務の推進	(1)時間外勤務の縮小、会議の効率化、事務処理の効率化等を図る。	3.4		○会議の効率化等によって、時間外勤務の縮小ができています。今後も職員のワークライフバランスを意識した働き方改革を推進していく。

**次年度の方
向性につい
ての校
長所見**

本年度の学校経営ビジョンに基づき、学校と家庭の連携の下、ある程度の成果を上げることができた。「知・徳・体・食」のうち「体」の領域については評価の結果を受け、指導の充実を図りたい。次年度は本中学校地区で、市の指定を受けた研究公開が予定されている。学力向上を目指した授業改善の工夫が柱となるが、教育課程の工夫及び改善や本地区ならではの地域とともに子どもを育てている取組についても広く知らせていきたい。
また、生徒の個に応じた支援を充実させるとともに地域を愛する生徒の育成に取り組んでいきたい。